

「男女共習授業の在り方と工夫について」

～授業の工夫と現場における課題発見～

広島県高等学校教育研究会 保健体育部会

部会員数	191 名
部会長	部会長 柏 裕美(向原高等学校長)
TEL(事務局)	事務局長 広島県立廿日市高等学校 小柳 洸 (0829) 32-1125

1 課題と目的

課題：男女共習授業における指導の在り方（指導の工夫）

目的：学習指導要領完成年度（全学年実施年度）となることから、部会の研究や教育委員会、大学と連携し、授業実践を通して、男女共習授業の今後の在り方や方向性について探究する。

2 主な取組の内容

①総会による研究テーマの共有と大阪体育大学小林博隆准教授による『男女共習授業の在り方と工夫』をテーマにした講演会を実施した。

②大阪体育大学小林博隆准教授の研究室と共同研究（実態調査）を実施した。

*保健体育部会員 191 名を対象とした。

*体育指導専門講座（1/21）にて成果報告をした。

3 取組で工夫したところ

①保健体育部会の研究活動

・理事会にてテーマの選定をする際に、男女共習体育授業における課題を整理した。その後、課題点を踏まえたうえで小林准教授と連携し、講演会を実施した。講演会では本題に加え、副題として「共生」を挙げ、「ユニバーサルデザイン」「インクルーシブ教育」「アダプテッドスポーツ」をキーワードに実施した。また、動画による他県での体づくり運動での実践例の紹介などが行われた。講演会后、講演で使用した資料を PDF に変換し部会員に送付し、内容の周知を図った。送付資料には、小林准教授の作成した教材や YouTube 動画の URL が添付されており、講演会に参加できなかった部会員が各資料を参考に教材研究ができるものとなっており、各地区で行う研修会の一助とした。

②実態調査

・共同研究（実態調査）では、講演会での質疑応答や、各地区の研修会で種目選択する際に、別習の形態になってしまうなどといった課題が見つかる中で、研修会を実施した学校以外の多くの保健体育科教員の現場での困りごとや、男女共習体育授業における課題点を発見し、授業改善につなげるために実態調査を実施した。

4 成果と今後の課題

①保健体育部会の研究活動より

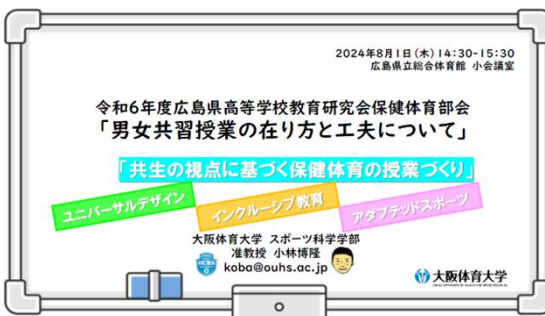
研究活動を通して、「新たな価値やよさの実感や発見・創出」というキーワードが浮かび上がってきた。生徒の能力や課題に応じたルールの変更や、スポーツとの多様なかわり方の醸成が高等学校における男女共習授業をより効果的に展開するための重要な要素であることが発見できた。

②実態調査より（回答者 86 名）

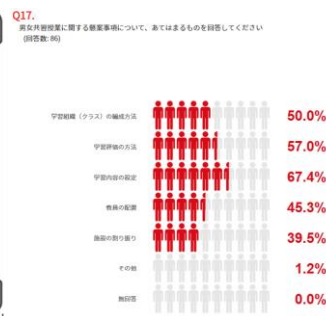
多くの教員が身体接触のない種目で男女共習授業における展開のしやすさを感じ、身体接触のある種目において展開の難しさを感じていた。「体づくり運動」において、指導のしやすさを感じていた（66.7%が肯定的な回答をした）。男女共習授業において性別の違いによる体力差により、運動意欲の低下などにつながるなどの不安を抱く教員が多く、懸案事項としてクラス編成や評価方法、学習内容の設定などに課題を抱えていた。体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、運動の楽しさを味わいやすく、指導者が男女共習授業を展開しやすい「体づくり運動」における授業づくりの工夫が今後の男女共習授業における研究のキーワードになると考えられる。このことから、次年度以降、体づくり運動の教材研究に努めていきたい。



大阪体育大学小林准教授による講演会の様子



大阪体育大学小林准教授による講演会のスライドの一部



実態調査による調査内容の一部